

資料 4

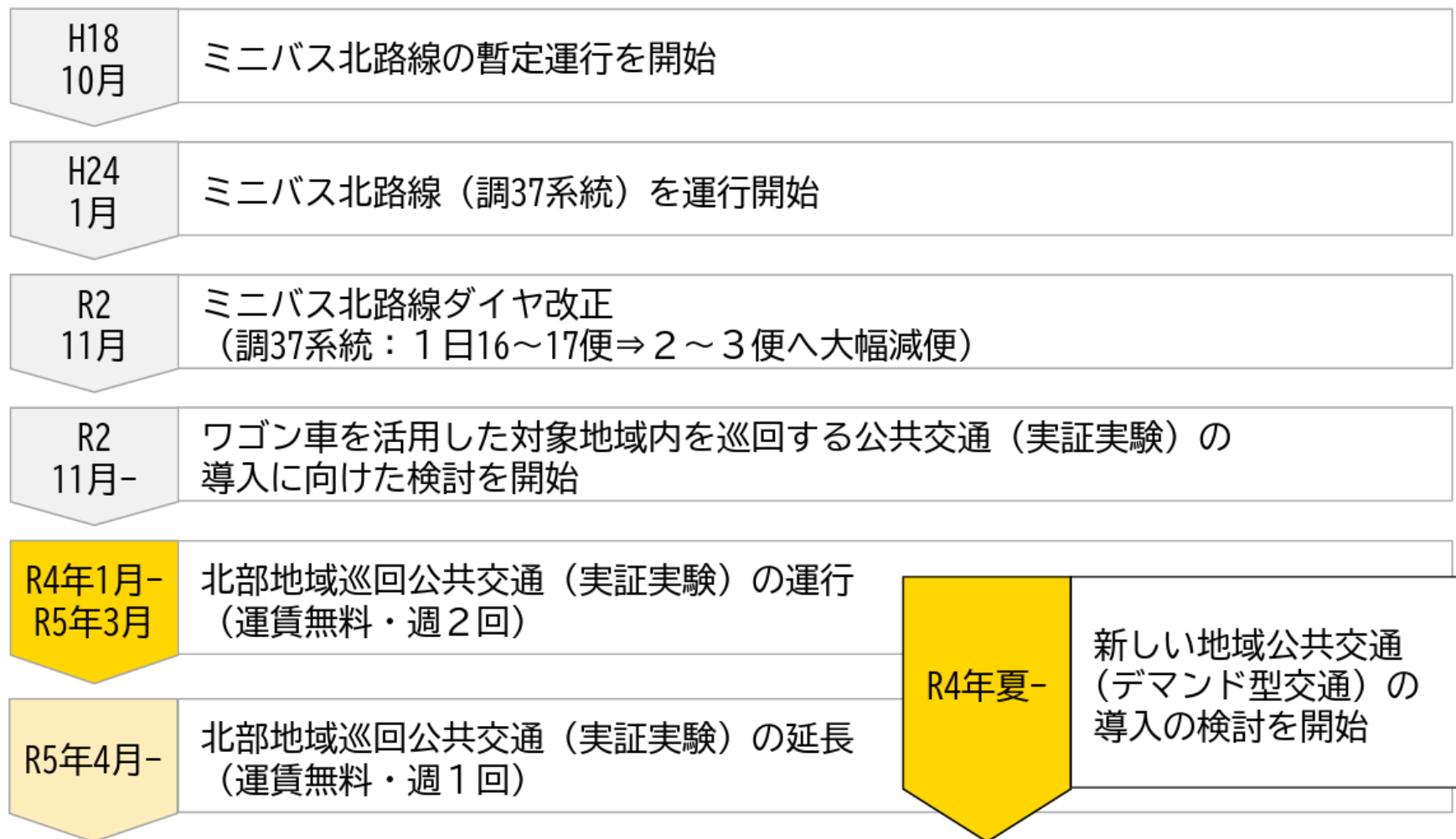
北部地域の交通について

1. 北部地域での地域モビリティ実施の流れ

1

(1) 検討経緯

- ミニバス北路線の減便に伴い、影響を受けた高齢者等の移動手段確保のため、2022年1月より巡回ワゴンバスにて実証実験を開始、その後、利用状況や地域の声を踏まえ、2023年12月よりデマンド型交通として運行。



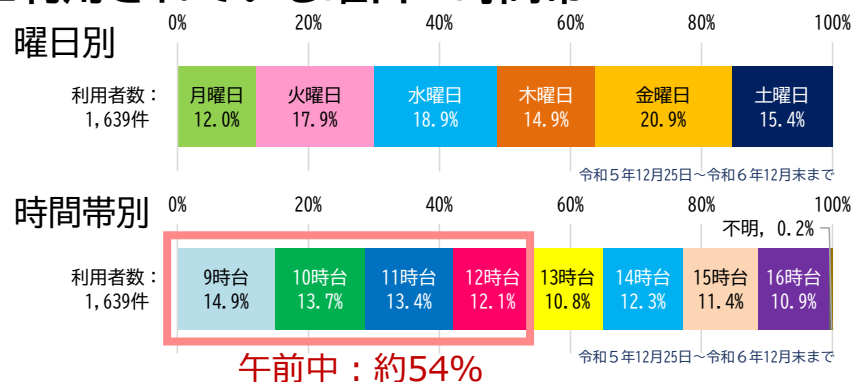
1. 北部地域での地域モビリティ実施の流れ

2

(2) 運行時間帯の変更について

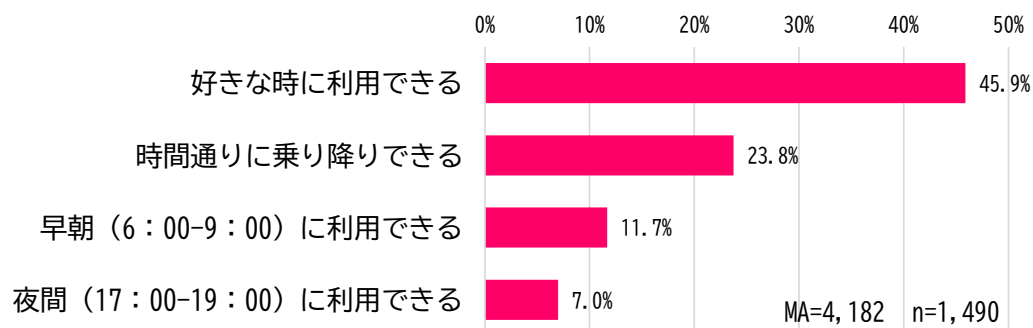
- 時間帯（降車時刻で集計）別の利用状況をみると、9時台の利用が多い
- 住民アンケートでは、早朝及び夜間における交通手段を求める意見がみられる
- 特に、朝は医療機関の診療時間に合わせて利用したいという意見があったため、朝の時間帯の拡大が求められる
- **運行開始時刻を8時に繰り上げ**，医療機関の開始時間に対応する

■利用されている曜日・時間帯



■北部地域内の交通手段に求められること

問：深大寺北町・東町の北部地域内を移動する際の交通手段について、あなたが必要だと思う項目を教えてください。
(令和6年度住民アンケートより／選択肢の一部を抜粋)



■運行時間に関するご意見・ご要望

デマンド型交通の運行時間に関する意見（抜粋）
(令和6年度住民アンケートより)

- ・デマンド交通の始動が9時では通院に間に合わない(深大寺北町／80歳以上)
- ・高齢者など朝から病院の受付をしたい人もいますので、対応すると便利になると思う(深大寺東町／30歳代)

1. 北部地域での地域モビリティ実施の流れ

3

(3) 車両台数の変更について

- 現在は2台をデマンド型交通専用車両として運用しているが、利用者数が少なく相乗りがほとんど発生していないため、**1台に変更**する

■北部地域デマンド型交通車両



1. 北部地域での地域モビリティ実施の流れ

4

(4) 現在の運行内容

項目	現在	対応	
運行曜日	月～土曜日（祝日除く）	変更なし	・ 利用者に合わせた運行日を引き続き検討
運行時間	9：00～17：00	<u>8：00</u> ～17：00	・ 医療機関の診療開始時刻に間に合うよう1時間早く運行
運賃	1人1回300円 （エリア外別料金，未就学児無料，各種割引あり）	変更なし	・ 移動に制約のある方への運賃制度や乗り継ぎ運賃の導入等について引き続き検討
予約方法	アプリ，LINE予約または電話	変更なし	・ 予約の簡素化を引き続き検討
乗降ポイント	58ヶ所 （令和6年4月時点）	変更なし	・ 高低差や路線バスとの接続性のほか，地域からの要望に対して引き続き対応する
使用車両	ジャパントクシー 2台	ジャパントクシー <u>1台</u>	・ 引き続き検討

2. これまでの実証実験について

5

以前の巡回ワゴンバス、現在のデマンド型交通での運行内容の比較

- ミニバス北路線の減便に伴い、影響を受けた高齢者等の移動手段確保のため、2022年1月より巡回ワゴンバスにて実証実験を開始、その後、利用状況や地域の声を踏まえ、2023年12月よりデマンド型交通として運行。

巡回ワゴンバス

デマンド型交通

実施期間

2022年1月～2023年12月

2023年12月～現在まで継続

実施期間 使用車両 利用者定員

使用車両
ワゴン車
定員：9名



使用車両
セダン型車両
定員：3名



運行方法

定時定路線型で運行（登録，予約不要）

予約に応じて運行（登録，予約が**必要**）

運行時間帯

9～16時（1時間に1循環）

9時～17時（時間内でいつでも予約可能）

運行曜日

2022年1月～2023年3月：火曜，金曜日
2023年4月～2023年12月：週1日

月曜～土曜日（週6日）

利用料金

無料

地域内：300円 ※子供，障害者等は200円
地域内～地域外：400～700円（※は200～600円）

利用者数

1日25～30人前後

1日4～5人程度

2. これまでの実証実験について

- 巡回バス，デマンド型交通と北部地域の移動手段確保に向けて試行を続けているが，地域から改善に関する意見も見られており，令和8年度以降の運行方針の検討が必要。

巡回ワゴンバス

使用車両 の視点

- 小型バス車両であり，地域交通としての存在感がある

わかりやすさ の視点

- ルートや時間帯が決まっており，利用者にとってわかりやすい運行内容

使い勝手 の視点

- 道路状況から乗車可能バス停が限られ，自宅からのアクセスがデマンドと比較して不便

採算性の 視点

- デマンド型交通と比較して運行経費が低く抑えられる

地域の意見 (アンケート より)

- 逆回りルートの運行
- 運行曜日の拡大（月曜から土曜までの運行）
- 利用している方からは，運賃を200～300円にしても良いから継続希望あり

デマンド型交通

- タクシー車両と同様のものを使用するため，地域交通として存在感を出すことが難しい

- 予約によって経由地，運行時間が決まるため，利用方法を理解していることが求められ，わかりにくい運行内容

- タクシーと同様に，自宅近くから乗車可能であるため，定時定路線のバスと比較して柔軟性が高い

- 定時定路線と比較して運行経費が大きく，採算性確保が課題

- 運行内容や利用方法の周知が必要（利用方法やスマートフォンに予約方法がわからないなどの意見あり）
- 利用可能層が限られるため，乗降場所を増やす，周知を行うなどして，ターゲット層を明確にして利用促進を図るべき

2. これまでの実証実験について

- 巡回バス，デマンド型交通と北部地域の移動手段確保に向けて試行を続けているが，地域から改善に関する意見も見られており，令和8年度以降の運行方針の検討が必要。

巡回ワゴンバス

デマンド型交通

1日あたりの 利用者数

- 1日20～30人で推移

- 1日5～6人で推移

利用の時間帯

- 11時台が最も多い
- 午後も14時台の利用が多く

- 9時台の利用が最も多い
- 午後は利用が少なくなっている
- 1時間あたりの利用は1人以下

利用者の年代

- ほとんどが60歳代以上の利用

- 70歳代以上の利用が多い
- 30歳代の利用も一定数見られる

利用の範囲

- 南台（パレット深大寺），梅の湯，ブランチ調布，野ヶ谷ふれあいの家入口などの利用が多い
- 北部地域の東部で主に利用されている

- 主に利用される乗降場所は，巡回ワゴンバスの停留所と同様
- 湯の森，地域福祉センター，グループホーム，杏林大学病院など利用の範囲が広がっている

運行経費

- 利用者あたり：2,000円/人程度
- 1日あたり：6万円/日程度

- 利用者あたり：26,000円/人程度
- 1日あたり：16万円/日程度

2. これまでの実証実験について（参考）

8

巡回ワゴンバス

(1) 月別の利用回数

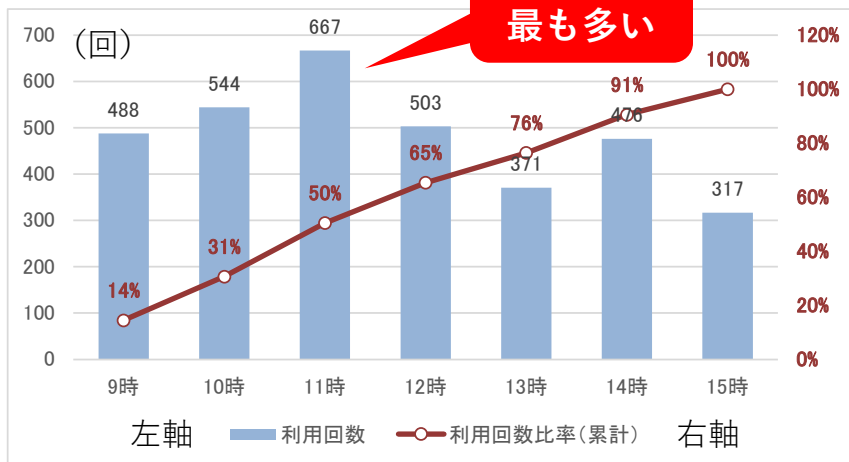
1日20～30人で推移

(人/日)



(2) 時間帯別の利用回数

11時台が最も多い



デマンド型交通

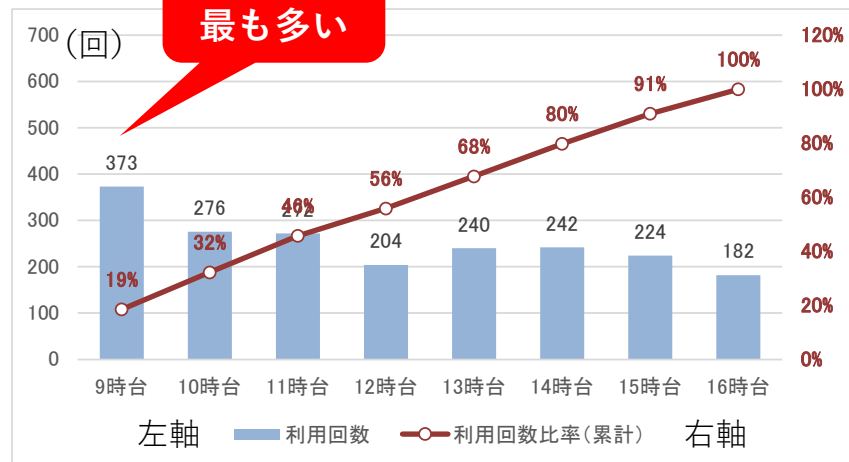
(人/月)

1日5～6人で推移

(人/日)



9時台が最も多い



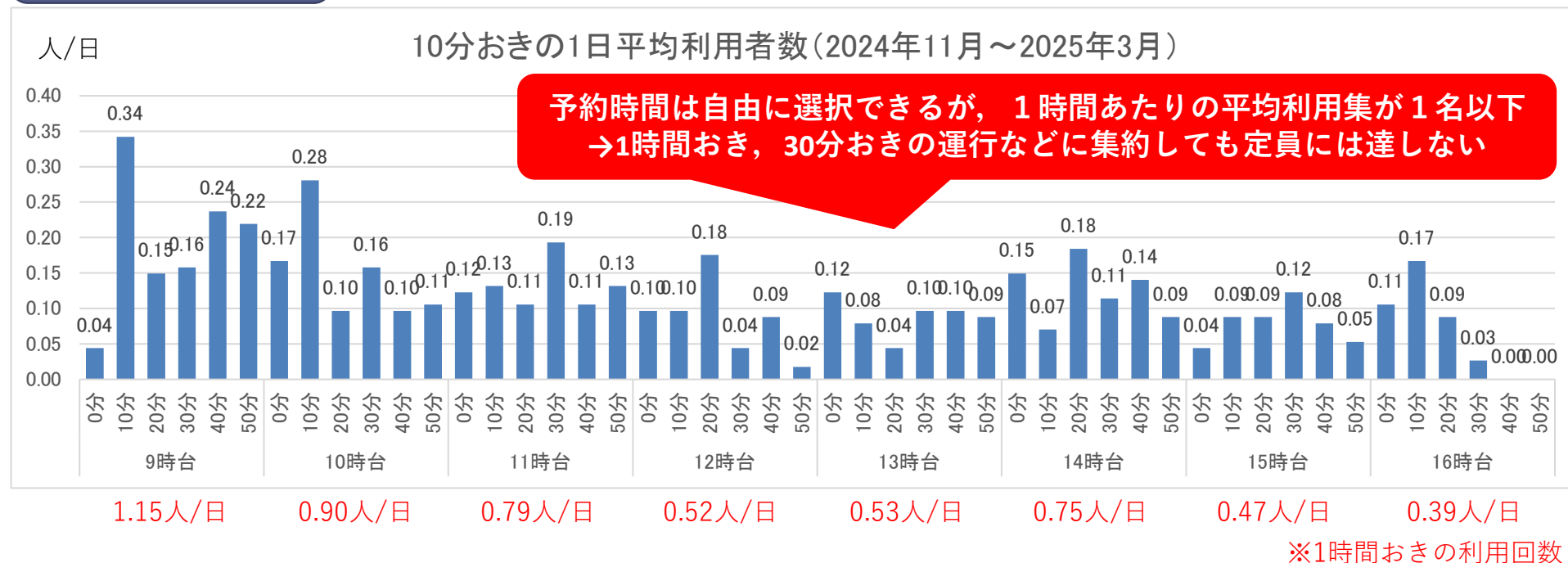
2. これまでの実証実験について（参考）

9

デマンド型交通

（2）時間帯別の利用回数

10分おきの利用状況

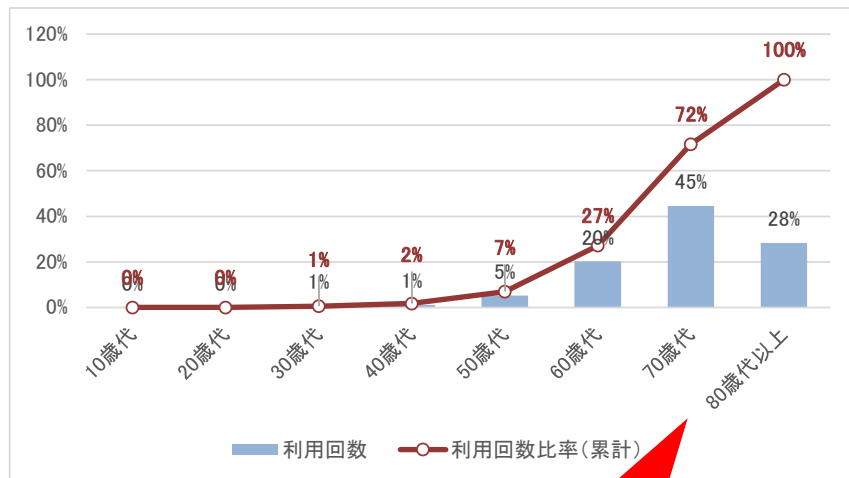


2. これまでの実証実験について（参考）

10

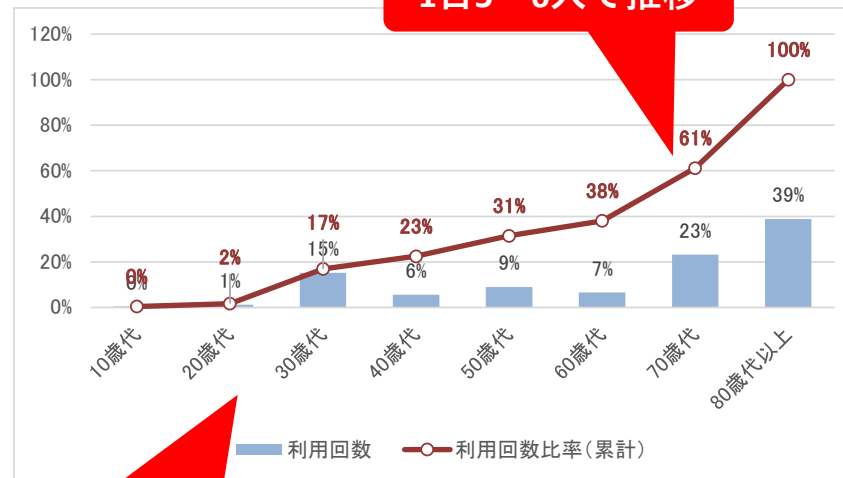
巡回ワゴンバス

（3）利用者の年代



ほとんどが60歳代以上の利用

デマンド型交通



1日5～6人で推移

70歳代以上の利用が多いが30歳代の利用も多く見られる

※巡回ワゴンバスはR4実施の利用者アンケートより整理

2. これまでの実証実験について（参考）

11

巡回ワゴンバス

（４）利用の多い乗降場所

○ 乗降者数
トップ5

運行ルート

令和4年5月17日から**ランチ調布**，
7月1日から**クリエイト**をそれぞれ追加経由



デマンド型交通

○ 乗降者数
トップ10



2. これまでの実証実験について（参考）

（5）運行経費

巡回ワゴンバス，デマンド型交通の運行実績

		運行日 （日）	利用者数 （人）	収入 （千円）	経費 （千円）	1 運行日 当たり経費 （円/日）	利用者1人 あたり経費 （円/人）	1日あたり 利用者数 （人/日）
巡回ワゴンバス	令和3年度	18	377	－	1,197	66,501	3,175	20.9
	令和4年度	104	2,989	－	6,220	59,809	2,081	28.7
デマンド型交通	令和5年度	71	209	69	13,916	196,004	66,585	2.9
	令和6年度	292	1,817	539	47,503	162,681	26,144	6.2

※巡回ワゴンバスは無料のため収入なし

3. 今後の取組について

13

(1) 北部地域のモビリティ検討

- 地域部会を通じて、実証実験以降の持続可能な公共交通実現に向けて最適なモビリティについて検討
- 交通モードの選択、乗降場所、運行内容（時間、曜日、対象者）などを地域の人とともに検討し、令和8年度以降の運行について運行計画を具体化していく

(2) デマンド型交通周知に向けた取組

地図作成会の実施

地図作成会の様子（5/26開催）



活動状況

運行エリアへのチラシ配布

配布したチラシ



各種広報物の作成

ガイドブック



3. 今後の取組について（参考）

その他の移動手段について

- 地域資源を活用した輸送手段など、地域交通の補完的な役割として、以下のような移動手段の動向について注視していく

移動手段（案）	運行方法イメージ	利点、欠点
ボランティアによる輸送	<u>地域住民</u> による送迎 （出発地～目的地間を結ぶ）	地域資源活用による持続性が期待できる ボランティア募集，組織化，体制構築など準備期間必要
地域資源（送迎車両）を活用した運行	<u>地域に立地する施設</u> の送迎バスを活用した運行（定時定路線を想定）	地域の車両の有効活用が可能 対応可能な施設探し，協議調整に時間を要する
民間デマンド交通事業「Go Shuttle」	<u>通常のタクシーのように利用するが，相乗りが発生する可能性あり</u>	通常のタクシー運行で対応可 タクシーと比較して料金が安い（タクシーの50～60%） 現在の相乗りが発生しやすい都心部，湾岸部のみで実施
公共ライドシェア	<u>アプリ等</u> を活用した， <u>地域住民による送迎</u> （出発地～目的地間を結ぶ）	地域資源活用による持続性 アプリ構築，タクシーとの競合など調整事項多数あり